

<白金標準先物、対ロシア経済制裁を受け底堅い値動き・・・>



(出所：オアシス)

バイデン大統領は先週にウォール街のシティやバンク・オブ・アメリカ、JP モルガン、ゴールドマン・サックスなどの銀行幹部と会合を行い、経済制裁を行う上での意見を聞いている。特に2018年4月に追加した対ロシア経済制裁が発表され、アルミ生産会社ルサールの大株主のデリバスカ氏がリストに上がると、アルミニウムの価格が大幅高を演じ6月5日の制裁開始を10月26日まで延期した経過がある。

既に米国はドイツとロシアを結ぶ天然ガス海底パイプライン「ノルドストリーム2」に対する制裁も対象と言及した事から欧州の天然ガス価格は20%以上の上昇を見せ、NY原油も90ドルに近付いている。またロシアの供給依存度が高いパラジウムは1530ドルから2390ドルまで反発を見せている。

特に白金は昨年11月にWPICが2022年の需給予想で20トンの供給過剰を予想しているが、ロシアの供給量は20トンと指摘しておりウクライナ情勢を受けて供給過剰の根底が崩れる可能性が高い。また中国の春節が明ける7日以降はデフォルト・リスクが緩和を示すと、昨年9月の中秋節や10月の国慶節と同様に高値追いに変化して来る可能性が高まると予想される。そのため今週は3670円以下で押し目買いの戦術が妥当と思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが切り下げだし、シグナルは上昇を続けるなど、ヒストグラムの乖離が縮小を示している。RCIでは短期が下げながら、長期は切り上げるなど強気を維持した状態で目先の調整には注意が必要である。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 467,000 円(2022 年 1 月 31 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 33,000 円(2022 年 1 月 31 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>